

共同研究プロジェクト

「個人の思想形成と蔵書の研究

—京都文教大学図書館所蔵の鶴見和子文庫を手がかりとして—」

活動報告

鵜飼 正樹・高石 浩一

本プロジェクトでは、故・鶴見和子氏より寄贈を受け、本学図書館が所蔵する「鶴見和子文庫」を研究の対象とし、個人の思想形成と、その地下水脈である蔵書との関連性を、学際的に解明することをめざしている。あわせて、他の図書館で所蔵されている個人文庫との比較や、鶴見和子文庫の有効な活用の可能性についても考えていきたい。

人間学研究所では2006年度から2007年度にかけて、鶴見和子文庫を通して考える鶴見和子氏の思想と方法論、および戦後思想史に関する公開シンポジウムなどを実施した。本プロジェクトはそれらの取り組みとも連動して、今年度は以下のような研究会を実施した。

●第1回研究会

テーマ：「生活綴り方から『戦後』を考える
—鶴見和子文庫をひらいて—」シン
ポジウムに出席して

報告：中谷いずみ（日本大学非常勤講師）

日時：2007年6月24日（日）10:00-12:00

会場：京都私学会館 201号室

●第2回研究会

テーマ：鶴見和子とE.エリクソン

発表者：高石浩一（京都文教大学臨床心理学科
教授）

日時：2007年12月21日（金）13:00-14:30

場所：京都文教大学

人間学研究所所長室 F231

●第3回研究会（公開講演会）

テーマ：「パーソナル・ドキュメントの位置
—個人全集編集の試みから」

講師：佐藤健二（東京大学大学院人文社会
系研究科教授）

日時：2008年2月26日（火）14:00-17:00

場所：京都文教大学 普照館2階

共同研究室 F232

※翌27日（水）は佐藤健二先生に鶴見和子文庫の見学をしていただき、その後研究会メンバーや図書館スタッフとの意見交換会を実施した。

2年目を迎えた2008年度は、鶴見和子文庫の未公開資料の整理、データベース化の作業をすすめるとともに、引きつづき研究会や公開シンポジウムを開催し、戦後史における鶴見和子氏の思想の解明にあたる予定である。